



日本サーバス本部会報

2019.5 日本サーバス会長

日本列島を楽しませた桜に続いて、若葉の美しい頃となりました。10連休も終わりましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。いつもサーバスの活動にご協力下さり、有難うございます。

平成に変わって令和になりました。この間、「万葉集は言葉の文化財」という講演を聞きました。令和の典拠「梅花の歌」の話もありました。歌は「空晴れ渡り 風心地良い初春のめでたき日、大伴旅人宅に集まって宴を催した。一堂に会する者は酒杯を酌み交わし、心を通わせた。喜びの気分で短歌を詠み合おうではないか。」というような内容です。



昔の人が自然を愛で、生活を豊かにしたように、私たちも風香る5月、青空の元、新緑に輝く野山に親しみたいものです。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

- | | |
|---|----------------------|
| 1. SYLE(Servas Youth Language Exchange) | |
| 皆様と一緒に SERVAS YOUTH の活動を！！！！ | ・YOUTH 部会長 N.Y |
| SERVAS' s SYLE Programs の紹介 | ・SYLE プロジェクト N.Y N.S |
| SYLE に応募した M.S さんの実施に至る経過 | ・SYLE プロジェクト N.S |
| SYLE プログラムで満喫したイギリス文化 | ・九州支部 M.S |
| 2. SERVAS INTERNATIONAL NEWS BULLETIN | |
| 国際サーバス会報の紹介 | ・国際部 N.M |
| 3. SERVAS INTERNATIONAL Making Connection Project | |
| Making Connections Project の紹介 | ・国際部 N.M |
| Making Connection Project について思うこと | ・会長 H.T |
| 4. ホスト&トラベラー | |
| メールでホスト受入れをやり取りする場合のご注意 | ・IT 委員長 Y.H |
| 編集後記にかえて | |

1. SYLE(Servas Youth Language Exchange)

皆様と一緒に SERVAS YOUTH の活動を！！！！

YOUTH 部会長 N.Y

5月1日より「令和」として、新たな時代のスタートとなりました。この「令和」の英語訳は「Beautiful Harmony (美しい調和)」と翻訳されています。この翻訳を聞いた時に、SERVAS の活動指針でもある相互理解・寛容を思い出しました。国際交流を通じ、相互理解をより深めることで調和のとれた SERVAS 活動と国際交流の発展の促進に貢献できたら良いなと改めて感じました。

この国際交流による異文化体験を学生時代から体験してもらおうということで、SERVAS には、SERVAS YOUTH 部があります。私は、日本の高校を卒業後、アメリカの大学に留学し、4年間アメリカで学生生活を送らせて頂きました。語学の壁に悩まされたこと、寮生活やホームステイ生活を通じて、多くのことを学ばせて頂いたことは今でも貴重な思い出として残っています。これからの未来を担っていく若い方々にも SERVAS の活動を知って頂き、体験して頂けたらとの思いから、SERVAS YOUTH の活動の輪を更に広げていきたいなと思っております。

また、SERVAS YOUTH という学生さんだけなのかなと思ってしまうかもしれませんが、SERVAS YOUTH の活動の1つに SYLE というプログラムがあります。これは年齢に関係なく（年齢によりプログラムの内容が違うので、詳細は別途案内をご参照ください。）、長期間の滞在を通し、国際相互理解を深めようというプログラムです。SYLE（10代～80歳以上参加可能ですよ！）を始め、様々な Servas Youth の活動を通して、SERVAS メンバーの皆様と一緒に SERVAS YOUTH の活動の発展に貢献していけたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

SERVAS's SYLE Programs の紹介

SYLE プロジェクト N.Y N.S

SYLE は年齢によってプログラムが設定されています。

Servas Youth Language 'Exchange' (SYLE-Junior)

10～18歳のSERVASメンバーに対するプログラム。事前にコーディネーター及び親からのアドバイスのもとに安全な家庭を設定し、2～3週間の滞在中お互いの家庭を訪問しあい、語学能力の向上や異文化理解、自立を促すことを目的とするプログラムです。

Servas Youth Language Experience (SYLE)

18～30歳のSERVASメンバーに対するプログラム。1ヶ月間の海外滞在中で、異文化理解や語学学習を通して、自立を促すことを目的とするプログラムです。このプログラムは人権及び平和活動の意義を学ぶ事も大切にされています。

Servas Language Volunteer Experience (SYLE-volunteer)

30～80歳以上のSERVASメンバーに対するプログラム。1.5カ月の海外ボランティア活動を通し、異文化理解を深めることを目的とします。参加者は、数件のホームステイ先で2週間程度、現地文化及び言語を学んだ後、1軒～2軒のメインのホームステイ先にて1ヶ月間滞在し、割り当てられたプロジェクトを行うプログラムです。

SYLE に応募した M.S さんの実施に至る経過

SYLE プロジェクト N.S

2018年9/4：九州支部のM.Mさんより娘（M.S）さんがSYLEを利用してイギリスに行きたいという希望が出される。

9/5：前東海北陸支部長K.Nさん（前SYLEプロジェクトリーダー）からSYLE対応のノウハウを聞きながら、O.T会長にまずイギリスの会長との連絡をお願いした。

9/12：O.T会長にSYLEの申し込み形式のフォームを作ってください、M.Sさんにそれを記入していただく。

9/15：M.SさんよりSYLE application formが届く。

9/16 : イギリスのサーバス会長に送付

9/20 : イギリスの Ru 会長から SYLE ではない形で数件のサーバスファミリーで受け入れたという希望が出される。それで M.S さんと Ru さん同志の話し合いで進めていく形で合意。その後、Seoul でのサーバス国際会議に参加された M.M さんと Ru さんで具体化され一気に話が進む。M.S さんは 2019 年 1 月 8 日にイギリスに発たれました。

2019 年 1/9 : M.M さんより。M.S さんはたくさんのイギリスのホストとの出会いで予想以上の感動体験をされているそうです。

SYLE プログラムで満喫したイギリス文化

九州支部 M.S

2019 年 1 月 8 日から 2 月 21 日、自身の大学四年次に Servas の SYLE プログラムを通してイギリスで過ごした 1 か月半は、私にとってかけがえのない経験になりました。

「大学卒業までにひとりで外国に行ってみたい」。何となく思っていたことを母に伝えたことが始まりでした。前年に母が Servas 会員になったことから、私は SYLE プログラムのことを知りました。

「出会い」、「クロスカルチャー」、「コミュニケーション」など、そのプログラムでは単なる旅行で味わえない経験ができるとわかり、初めてのホームステイに挑戦してみたいと思いました。そこからは Servas Britain 会長の Ru さんとメールのやり取りで、日程調整や現地の情報収集を行いました。「一つの地区に留まるのではなくせつかくの機会なので色々な場所に行きたい」という思いを伝えたところ、Ru さんから各都市 13 軒のホストファミリーを紹介していただきました。

London から Manchester 経由で Scotland まで北上し、Newcastle、York を通ってまた London に戻って来るといふ、小さく国内一周をするプランでした。それぞれのホストファミリーとも、また、同じようにメールのやり取りをしながら、当日の服装を互いにメールで伝えて、駅で初対面するスタイルで各地を回りました。

どのホストファミリーもとても親切で、日本から一人で来た私に、無償でもてなしてくださり、旅のサポートをしていただきました。(観光プランを決めたり、次の目的地でホストしてくださる方へ前日に連絡を取ってくれたりなど...) 皆さんが温かく迎え入れてくださり、一人旅なのにひとりではないなと思う瞬間ばかりでした。中でも思い出深い出来事は、London 近郊地区の St.Albans から Wellington への移動の際、電車を降り過ぎ (バスを含め次の停留所のアナウンスがないケースも多い) 乗り換えた便が急に止まったりで、3 時間以内の移動が、倍以上の 7 時間もかかってしまいました。気疲れとストレスを抱え、やっとの思いで駅へ着くと、Li さんと Ro さんが出迎え、私の身を心配してくれて、その晩は日本食のレストランへ連れて行ってくれました。翌日の食事の際は、彼らは箸で、私はナイフとフォークを使っていることに気づき、可笑しかったと同時に日本の文化に興味を持ってくれていることにとっても嬉しくなりました。その他にも、Scotland 発祥のケリーダンスを踊るパーティーへ参加したり (Ro さん、Du さん)、毎日イギリス映画を字幕なしの英語音声だけで鑑賞したり (Je さん)、デモンストレーションに参加して (Ly さん、Pa さん) 考え方の多様性を感じたりなど、毎日が新鮮でした。(思い出は書き出すと切りがないのでこのぐらいにします。) よく一人でも美術館へ行きイギリスの歴

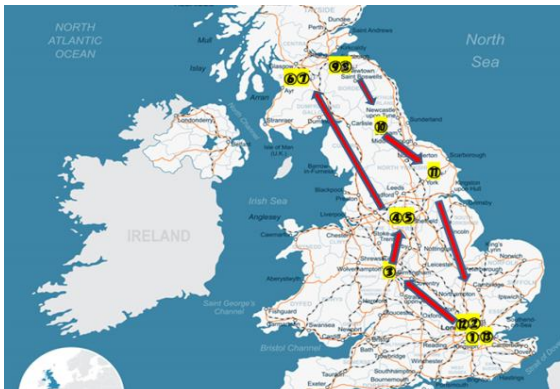


スコットランド、ロッキノックにて

史や文化を学びました。大学でイギリス文化のゼミナールに所属していた私にとって、机上の議論だけでは知りえなかった情報がたくさんありました。

次に、SYLEプログラムを通して感じた私自身の変化についてです。今回の渡航理由のひとつとして、以前の自分へのリベンジがありました。大学一年次に友人と短期でフィリピン留学をしました。当時は団体行動で、つい日本語ばかり使ってしまう日々、食べ物・考え方の異文化を受け入れられない部分もあり、それがストレスでした。今回は一人だったので、何をするにも自らの行動や英語が必要でした。自分の意思を持ち、それをきちんと発信しなければ何も始まりませんでした。特に予定がない日は、お話を楽しんだり、近所の散歩について行ったりなど、ゆっくり過ごす日もありました。おかげで今回は多くの異文化に触れることができました。そのような部分を楽しめるようになったことが、大学時代を通しての成長、リベンジ達成になったと思っています。旅の最初と最後に Ru さん宅にお世話になりましたが、一か月半で自分でも驚くほどリスニング、スピーキングができるようになってきていると実感することができました。ネイティブスピーカーと毎日色々な会話をするので、その都度新しい発見をしながら自身の英語力も上達できました。これもまた Servas の大きな魅力だと思います。

4月から社会人生活がスタートしました。仕事柄英語を使うことがないので、この旅行が最後かと思っていましたが、趣味程度でも英語に触れ続けていこうと思い、現在方法を模索しているところです。これからの人生の中で、この SYLE 旅行の経験よりもさらに濃い思い出が作れるように、今後も頑張っていきます。ありがとうございました。



イギリス縦断の旅（13軒のホスト）



Edinburgh 近郊の港 New Haven 海景色

2. SERVAS INTERNATIONAL NEWS BULLETIN

国際サーバス会報の紹介

国際部 N.M

国際本部ニュースレター2019年度第1号が発行され、以下のような記事が載っています。

- 1) 昨年初めてカナダで電子版 LOI が試験的に発行されましたが、今年に入りフランス、イスラエル、ベルギー、スウェーデン、シンガポールおよびヴェトナムが加わり、併せて7か国で発行されることになりました。改善すべき点がまだまだあり、世界共通の形式になるまでには時間が掛かりそうです。
- 2) 「青年及び家族」委員会では今年世界各地で様々な計画を打ち出しています。例えば、トルコでは7月に「平和学習会」と「映画鑑賞および学習会」、イタリアでは8月に「青年と家族によるサマーキャンプ」、スペインでは「ユース環境を考えるキャンプ」といった具合です。 関心のある方は <<https://servas.org/en/events-meetings>> にアクセスしてください。
- 3) 国連駐在活動員が増える。これまで国連駐在員は Da さん一人でしたが、今年から Go さん他4名

が加わり今後の活躍が期待されます。

- 4) イタリア人女性によるサーバス旅行記第4弾、今度は南米ブラジル篇です。
- 5) SOLの現状
- 6) イタリア、フィンランドほか10か国で執行委員が入れ替わりました。



国際本部のスタンプ代収入が昨年度ちょっぴり増えました。

原文は先日支部長さんを通じて会員の皆様にお届けしましたが、サーバスのWEBサイト「国際サーバス」の「最近の「国際サーバス会報」Webページ」に掲載されています。

3. SERVAS INTERNATIONAL Making Connection Project

Making Connections Project の紹介

国際部 N.M

サーバス国際本部には Making Connections プロジェクトというものがあります。それはサーバス会員が外国からのトラベラーを単に泊めるだけではなく、いろいろな体験を提供することによって「サーバス」の主要な目的の一つである「学習」をしてもらう、というものです。そこで各国の会長に、自分の国ではどんな体験を提供できるかを、このプロジェクト委員会に連絡してほしいと要請し、その内容を記入する形式も添付してあります。

Making Connection Project について思うこと

会長 H.T

会長になって SI(Servas International)からいろんな文書が送られてきます。その中の1つがこの Making Connection Project でした。私はこのようなものがあることを初めて知りました。今回は各国で出来る事を連絡して下さいという会長あての文書でしたが、この事については国内で話したこともないので、もちろん呼び掛けには答えるものは、SI Making Connections Project に送っていません。でも、内容を読むと面白そうなので、このようなものがあるということを会員の皆さんにお知らせしようと思い、西山さんに訳して頂きました。

サーバスステイは2泊3日が原則ですが、Making Connection Project では、もっと長期のステイを引き受けてくれ、volunteering (ボランティア), work experience (職業体験), language learning (語学学習), sharing skills and knowledge (スキルや知識の共有)、connecting with local peace organisations (地域の平和団体との繋がり) 等を体験(学習)してもらおうというものです。今回は募集だけなので、これ以上お知らせする事はありませんが、この事について又 SI から連絡があれば、支部長さんを通じて会員の皆さんにお知らせします。

4.ホスト&トラベラー

メールでホスト受入れをやり取りする場合のご注意

IT 委員長 Y.H

最近、ホスト会員の方がフランスのトラベラーを受入れの約束をされた後、事情によりホスト受入れはキャンセルされましたが、数日後にお金を工面してほしいと言うメールがそのトラベラーの名前で届きました。不審に思ったホスト会員の方は拒って被害はありませんでしたが、後日調べたところ、届いたメールはトラベラー本人からでなく、メール内容を盗み見られた成りすましの詐欺メールだったようです。

インターネットの世界ではこのような「オレオレ詐欺」のような成りすましのメールや、ホームページが近年増えています。インターネットのメールは通常暗号化されていないので、相手に届くまでの経路でメールの内容を盗み見ることは、少しネットワークの知識があれば可能なのです。

今回の場合も、ホストとトラベラーのメールのやり取りを盗み見た悪者が、トラベラーの名前を騙ってお金を要求するメールを出したものと思われます。メールのヘッダーを詳細にみると、B（悪人）がA（トラベラー）の代わりに出した、というようなことが書かれていることが多いのですが、表面上はAが差出人のように見えます。（これは本来、秘書が本人の代わりに出すための機能です。）

このような事態は今後も発生する可能性がありますので、会員の方がホスト受入れをメールでやり取りする際には以下に注意して確認するようにして下さい。

1. （ホスト照会のメールが届いた時）相手は本当に **SERVAS** トラベラーか？
2. （メールの 2 回目以降）届いたメールは本当に今までやり取りしていた相手からか？

1. に関して確認する方法は、

- ① 添付されている LOI は正しく有効なものか？

有効な LOI とは、従来の LOI の場合はインタビューアのサイン、スタンプの添付があり、有効な期間内であること、SOL からの LOI の場合は Stamp N° , Valid Until, Stamp Issued In, Member number が書かれていて、有効な期間内である事です。

- ② SOL や EHL にトラベラーとして記載はあるか？

SOL でトラベラーを検索、また（もし該当の国の EHL を持っていれば）EHL を見て確認して下さい。

これらが確認できない時は、相手に有効な LOI を送るように返信して、それが確認できてからホスト受入れを約束するようにして下さい。

2. に関して確認して頂きたいことは、2 回目以降に届いたメールに関して、

- ① 届いたメールが最初に来たメールと同じアドレスから来たメールか。
- ② メールの内容に不審なことが書かれていないか。
- ③ （返信ボタンを押した時）宛先のアドレスは最初が届いたメールのアドレスと同じか。

上記に関して少しでも不審なことがあれば、最初に来たメールのアドレスに対してメールを書き、「このようなメールが来たが本当にあなたが送ったものか？」など、不審な点を相手に直接聞いて確認して下さい。本人から来たものでなければ、不審なメールは削除し、無視して下さい。不審なメールに、添付ファイルが付いてたり、本文に特定のホームページを開くように指示がある場合は、絶

対に開いてはいけません。ウイルスや、詐欺サイトに侵される可能性があります。

以上は、ホストを受入れる際の注意ですが、こちらからホストを依頼する際も同じく逆の立場で注意が必要です。即ち、①有効な LOI を添付する、②SOL 上の自分のプロフィールが正しいか確認する、③最初にメール発信した同じアドレスを 2 回目以降も使う、です。

インターネットが発達して、ホストの受入れ・依頼が大変楽にできるようになりましたが、危険も潜んでいます。相手先と互いに注意し合いながら SERVAS 活動を楽しむようにしましょう。

編集後記にかえて

今回も色々な方が原稿をお寄せくださり、本部会報を皆様にお届けすることができた事、本当にありがとうございました。

令和元年 5 月 1 日、サーバストラベラーをお迎えしていたので、毎年トリップアドバイザー No.1 の伏見稲荷神社をご案内しました。トラベラーが御朱印をもらいたいと言われた所、今日は記念すべき日、いつもはご朱印に関係のない私もご朱印をもらいました。元号はカウントがややこしくて、いつも西暦に頼っている私ですが、令和の始まりは物事の始まりのような新鮮な気持ちになります。私は何を新たにスタートさせようかと考えました。そして、サーバスを通じて色んな所を訪問して「百聞は一見に如かず」を豊かにすること、サーバスを通じて多くの方との「Making Connection」を豊かにすることをしようと思いました。皆様はいかがでしょう。



令和元年が世界の隅々まで全ての良きスタートであることを祈っています。